

海岸保全施設維持管理マニュアル改訂調査委員会（第1回）議事概要

日時：平成25年8月8日（金）10：30～12：30

場所：（財）鉄道弘済会 弘済会館 4階「萩」

出席者：横田委員長、宇多、佐藤、水谷、岩波、丹治、金田、諏訪、浅井、加藤、外城、成田、美作、石垣 各委員

1. 主な議事

- 事務局より、委員会の設置趣旨、進め方、海岸保全施設の維持管理に係る現状・課題等を説明し、意見交換を行った。
- 事務局より、維持管理マニュアルの改訂に向けた点検方法の改善や長寿命化計画の策定に必要な検討について説明し、意見交換を行った。

2. 主な意見等

【マニュアルの改訂について】

- 改訂の背景としては笹子トンネル事故だけではなく、大蔵海岸や菜生海岸等の事例を引用して目的を整理すべき。
- 改訂版マニュアルは長寿命化に特化すべきでない。点検後の結果の反映先が長寿命化計画だけになってはいけない。背後地の住民にとってはAランクかどうかの判定が迅速になされることが重要である。
- 海岸管理者は各自点検を行っているはずであり、現行マニュアルを使っていないがためにまるで施設の点検をしていないかのように誤解されるのは本意。改訂版では現行マニュアルの内容以外に日常行っている点検が反映されるもっと広い意味の点検管理のためのものとし、「ライフサイクルマネジメントのための」はタイトルから外すべき。
- 部材の劣化予測ができなかったらそこでストップするようなマニュアルではいけない。
- 健全度と性能（機能）と寿命は区別して、マニュアル中に記載した方がよい。
- マニュアルにおいて優良事例を示すことで点検者に管理イメージを持ってもらうことが必要。

【点検方法の改善について】

- 変状連鎖は点検個所の絞り込みを行う重要なもの。現行マニュアルで引用している変状連鎖は、東日本大震災の津波越流破壊等近年の災害についてのものについて見直し、充実が必要。
- 点検では、場所の絞り込みと点検項目の絞り込みが必要。
- 日常的な点検として、海岸巡視（パトロール）を活用できることから、マニュアルに記載すべき。
- 壊れるところは、前浜の有無や波の来襲状況によって、大局的に判断できるため、点検地点の絞り込みの際に航空写真等を活用することは有用。また、軟弱地盤地域においては沈下傾向に留意することも、点検地点の絞り込みの際に

は重要。さらに吸い出しには裏法面の排水溝から発生することもあるので、点検地点の絞り込み事例に加えるべき。

- P. 22 の図には、構造形式毎に具体的に示した方がわかりやすい。
- 海岸保全施設は、使用を前提とした港湾施設のような施設とは、求められる機能が異なるということを考慮すれば、点検の項目や評価などを全面的に見直すことでも良いのではないか。
- 用水路で定点観測を行いながら点検・補修を行った実施例があり、海岸保全施設にも同様な手法を取り入れることができるのではないか。
- 静岡県では、補修や点検を実施中であり、その結果を紹介できる。

【維持管理・点検に係るデータについて】

- 現在の点検結果の記録方法は詳細過ぎて全体としての機能の低下を把握することが難しいので、データベースの内容としてはシンプルに状況が把握しやすい書式のものが良い。また、点検結果の中から危険な箇所を示した概要版を作成しておくが良い。
- 点検結果の出力はデジタル情報とした方が良い。
- 現在の海岸保全区域台帳の整備状況について、整理していただきたい。

【長寿命化計画の策定に必要な検討について】

- P. 27、P. 28 は事後保全事例を加えた方がわかりやすい。
- P. 27 の課題として建設年度が不明なものに対してどう扱うかが課題である。建設年度が不明の施設については断面の情報も無いはずであり、そのような施設での維持管理をどのように行っていくのかを示した方が良い。
- 長寿命化計画をマニュアルに盛り込む場合、対象の母集団を何にするのかは重要である。
- 現場の管理は、初期不良があるかもしれないことを含めて管理しなければいけないはず。被災地では災害復旧で新しく管理するものがどんどんできてくる。完成時の資料の引き渡しは大事な視点。
- 「予防保全」と「事後保全」は、どのような状態で対策を行う場合を想定しているのか、明記が必要ではないか。
- 変状連鎖図だけではイメージが捉えづらいので、それぞれの段階で図を加えるなどして、わかりやすく説明する方が良い。
- 健全度評価のランク付けの中で、A と a の関係を整理することは現時点では難しく、今後、検討が必要。
- 道路のように利用頻度の高い物に対しては、補修の有無が利便性に大きく関わる。一方、高潮や津波、台風などが発生しないと機能を発揮しない海岸施設に対して、その補修効果を説明することは難しい。

【その他】

- 施設が壊れる前に行う補修や寿命を延ばすための補修に対しては、補修を行うことによる効果が明確に示すことが難しい。
- 施設はどれも重要であるため優先順位付けを行った上で、維持管理を行うこ

とについては、地元への説明が難しい。また、予算が厳しいため、施設の点検を行うことが難しい。

- 維持管理マニュアルを公表・公開することは、海岸管理者や一般に対して認知度を上げる効果があるので、重要。
- 予算が少ない現状では、事後保全による対応とならざるを得ないため、海岸管理者への行政的なサポートも必要である。
- マニュアルと政策の両輪で回す必要があるため、行政とリンクさせて考えた方が良い。

(以上)